

岐阜県が取り組んでいる自然の水辺復活プロジェクトについて

■プロジェクトの主旨

生物の多様性は人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすものとして国家レベルでの取組みが進められているところです。岐阜県では「県民協働」「人づくり」「モノづくり」「現場」をキーワードに「自然の水辺復活プロジェクト」としてこの問題に取り組んでいますので紹介します。

■プロジェクトを構成する4つの施策

①県民協働／岐阜県自然共生工法研究会

建設業者・建設コンサルタント・製品メーカー・学識経験者・住民・行政の中から、プロジェクトの主旨に賛同する方々が集まり岐阜県自然共生工法研究会が任意団体として昨年12月6日に設立されました。今後、県と連携しながらプロジェクトを推進していきます。

②人づくり／岐阜県自然工法管理士認定制度

岐阜県の自然を理解し、その知識を社会資本整備に活かせる人材を育成を目的に人の認定制度を創設しました。本年1月に、県幹部職員に研修を行い、小論文試験を経て自然工法管理士が誕生します。今後、カリキュラムの熟成を図り産業界や一般の県民へも研修枠を拡大していきます。

③モノづくり／岐阜県自然共生工法認定制度

“川の個性を活かした川づくり”を進めるため効果的な手法の提供を目的として、“モノの認定制度”の検討を進めています。この制度により、自然共生に対して効果的な工法や製品の開発・活用促進を図り、ビオトープ産業の発展も期待しています。

④現場での研究／自然共生工法展示場の拡充

自然共生工法研究センターに隣接す

る自然共生工法展示場では、一般公開以来、多くの見学者が訪れています。昨年末に、新たに15工法を公募により追加し、展示施設が上流側へ拡充されました。また 研修・展示を目的とした研修センターを川島町の町民会館を利用して開設しますので皆さんの利用をお待ちしています。(大垣建設事務所河川砂防課長／前岐阜県河川課技術課長補佐 河合成司)



一般に公開されている自然共生工法展示場

INFORMATION & NEWS

ARRCと読者を結ぶ広場

■中部地整の河川環境研究会を開催

平成14年3月12日、中部地方整備局の有志から成る9名が共生センターで勉強会を行いました。当日は電気ショッカーによる魚類採捕や河道内微地形を測定・解析する方法を体験しました。

共生センターとしても、またこのような機会を積極的に設け、河川・生息空間と魚類・生息状況との関連性を実感できる場を提供していきたいと思っています。



(左)電気ショッカーによる魚の採捕。(右)河道内微地形を測定。

■地域と連携して行う環境学習のその後

共生センターでは、地元の川島小学校と連携して、河川生態系に対する意識に基づいた環境学習のカリキュラムづくりを行ってきました。

そのプロセスでは、河川の実体験とデジタル教材を組み合わせながら学習を支援しました。実践初期、魚に集中していた児童の興味・関心は、河川での魚の採捕や観察を体験したことで、魚の体の仕組みへと移り、さらに、水中の環境的な要素へと発展しました。その後、環境



河川水と水道水を汲んで水質をチェックする。

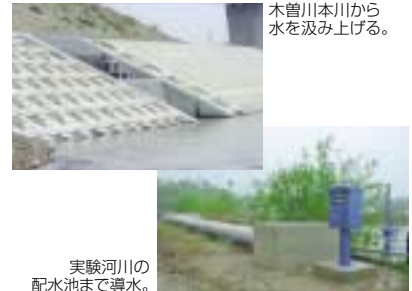
調査を体験したことにより、児童の意識は身近な環境問題へと発展していきました。

■木曽川の水を導水するポンプが完成

木曽川本川の水を、実験河川の配水池まで直接導水するポンプが設置されました。

渇水時等、水を安定的に実験河川に供給できない状況の時に使用される予定です。

このポンプによって、毎秒0.3tの水を導水することが可能です。



木曽川本川から水を汲み上げる。

実験河川の配水池まで導水。



〒501-6021 岐阜県羽島郡川島町笠田町官有地無番地
Tel 058689-6036 Fax 058689-6039
URL <http://www.pwri.go.jp/>

自然共生研究センターの英訳は、Aqua Restoration Research Center 略してARRC。この略称の発音が期せずして Noah's ark(ノアの方舟)と同じになった。

発行：独立行政法人 土木研究所 自然共生研究センター
ARRC NEWS No.4 2002年4月

R100 古紙配合率100%再生紙
を使用しています。



交通のご案内

自動車をご利用の場合

東海北陸自動車道岐阜各務原ICより10分
(研究棟へは河川環境楽園・西口駐車場が便利です)
※川島PAより徒歩で来ることができます。

電車をご利用の場合

名鉄新名古屋駅または新岐阜駅から笠松駅へ笠松駅からタクシーで10分
(笠松駅からの交通はタクシーのみです)